

2024年度 適性検査

「国語の読解力」

【大問1】 次の各設問に答えなさい。

(全9問／配点63点)

問1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

普通の定型俳句にしか馴染んでない人たちの眼には、自由律俳句は奇異なものとしてしか映らないに違いない。五・七・五のすっきり整った定型が、なきものとされているからだ。

ほろほろ酔うて木の葉ふる

この句の場合は七（ほろほろ酔うて）・五（木の葉ふる）で構成されており、つまりは五・七・五の頭の部分を取っ払って、あとの胴と足の部分だけで一句を成立させてあることが判る。自由律俳句にはえらく長ながしいのもあれば、逆にこのように短いものもある。

「ほろほろ酔うて」とあるからには、まずまず穏やかに酒が呑めたのだったろう。呑んだ量も、多いのでも少ないのでもない程良い加減で止まっている。そのような酔い心地「ほろほろ酔うて」というのと、次にくる「木の葉ふる」とが呼吸の一致を見なくては作品全体の情調は完成しない。実に、木の葉の降っている様子は「ほろほろ」の酔い心地に良く似合っているのである。と  
言うか、「ほろほろ」は、酔い加減を表わすだけでなく、ほんの少しは木の葉の降る様態をも示しているのではないだろうか。

(前山光則『山頭火を読む』)

問い：筆者の主張として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 「ほろほろ酔うて」と「木の葉ふる」の見事な調和によって、詠み手の意気消沈する有り様が、初冬の寂しい情景とともに描かれている。
- ② 「ほろほろ」という擬態語は、穏やかな酔い心地のみならず、木の葉が静かに落ちていく様子も表現するために用いられている。
- ③ 俳句の定型から外れたことで、自由に酒を楽しむ人間と、風に吹かれて散りゆく運命にある木の葉の対照性が際立っている。
- ④ 酒に酔いながら落葉を眺めるという安穏とした日常風景を描くことで、自由律俳句に馴染みのない者にも楽しめる句になっている。
- ⑤ 句切れを無くすことによって、酒をあおるなかで高ぶり、有頂天に達する詠み手の心情の動きが流れるように表現されている。

問2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ガリレオは神に至る道には二種あると主張した。「神の言葉」を記した『聖書』は救霊の書であるが、一方、神の作品として「神の御業」の数々を刻み込んでいるのが「自然という書物」で、こちらは数学的記号で書かれているから、万人に開かれていると主張した。自然は理解可能であるという「書物—記号」観こそ、操作的自然観をもたらし、デカルト的還元主義と言われる「自然の形式化信仰」を生み、近代科学の圧倒的なパラダイムを作ってきたのである。それは還元主義という近代思想の母体になった。還元主義とは、化学は物理学に、生物学は化学に、心理学は生物学にと、上位の概念を下位の概念に還元して説明する立場である。これを徹底化すれば、すべてを数量化するのが科学だということになる。一種の数量原理主義である。生物個体を細胞内の遺伝子、DNA構造から説明する分子遺伝学もこの路線にある。こういう立場はキリスト教がよく似合う、と私は思う。最高の真理である□を体現する究極の自然法則なるものを、一挙に把握し、そこから下降しながら、分析的演繹的に特殊命題を証明していけばよいからである。

(金子務「科学と宗教の交錯」)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 操作的自然観
- ② パラダイム
- ③ 神の御業
- ④ 数量原理主義
- ⑤ 救霊の書

問3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヒトは言葉を書きつけることで、この宇宙での最大の王「時間」と対抗してきた。芭蕉ばしょうは五十年で時間に殺されたが、しかしたとえば、周囲がやかましいほど静けさはいやますという一瞬の心象を十七音にまとめ、それを書きとめることで、時間に一矢むくいた。閑さしずかや岩にしみ入蟬いるせみの声はまだ生きている。時間は今のところ芭蕉を抹殺できないでいるのだ。芭蕉はほんの一例であって、文学史は、というよりこれまでにヒトが書き記したものすべて、すなわちヒトの記憶一切はみな同じ構造をもっていると思われる。書庫から鷗外おうがい漱石そうせき露伴ろばんを取り出し彼等かれらの文章にふれるとき、わたしたちはこの三大家が文章に姿をかえてちゃんと生きていることを確認する。その瞬間に時間は折り畳まれ、ヒトの膝下にひざまずくのである。せいぜい生きても七、八十年の、ちっぽけな生物ヒトが永遠でありたいと祈願して創り出したものが、言語であり、その言語を整理して書きのこした文章であった。わたしたちの読書行為の底には「過去とつながりたい」という願いがある。そして文章を綴つづろうとするときには「未来へつながりたい」という想いおもがあるのである。

(井上ひさし『自家製 文章読本』)

問い：本文に見られる表現上の工夫として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 本文の最後の二文は対句となっており、時間に抗<sup>あらが</sup>うためにヒトが言語に込めた期待を改めて強調している。
- ② 人間を、「人」ではなく「ヒト」と表現することで、高度な言語能力を備えた特別な存在として扱っている。
- ③ 本文の「芭蕉は……時間に殺された」と「時間は……芭蕉を抹殺できないでいる」という箇所の「芭蕉」は、ともに換喩法で「芭蕉の作品」を表している。
- ④ 「芭蕉は……時間に殺された」や「時間は……芭蕉を抹殺できないでいる」という表現には、倒置法が取り入れられている。
- ⑤ 「この宇宙での最大の王」という言葉は、時間が宇宙において支配的な存在であることを直喩法によって表現している。

問4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「でもな——」

とカナブンは話を続けた。「ある日、おれは森のなかで、すげーえきれいなカナブンに出会ったんだ。全身が青緑色に光り輝いているやつ。カシの木にとまっていて、手をのばしたけど、もう少しのところで届かなかった。宝石みたいにきれいなやつで、すぐにブーンって飛んでいっちゃった。

それからおれは、カナブンでいい、と思うようになった。人にどう思われようが、自分は自分なんだって。だからカナブンと呼ばれても、ちっとも動じなくなった。自分からニックネームは、カナブン、と名乗るようになった」

「ふうん」

「おれはカナブンのなかでも、光り輝くカナブンになる。そう決めたんだ」  
金崎文彦はまぶしそうに言うと、唇を強く結んだ。

「そうか、そんなにきれいなカナブンがいるんだ？」

僕の口元が自然とゆるんだ。

(はらだみずき 『帰宅部ボーイズ』)

問い：「唇を強く結んだ」とあるが、この時の金崎文彦の心情として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 宝石のように光り輝くカナブンの捕獲に失敗した過去を思い出し、当時の自分の非力さを恨めしく思っている。
- ② カナブンというニックネームを肯定的に捉え、自分らしく生きながら立派な人間に成長するという決意を再認識している。
- ③ 周囲からのカナブンという汚名をはねのけ、今日までたくましく生きてきた自分を賞賛し、改めて誇りに思っている。
- ④ 自分をカナブンと呼んで蔑み、爪弾き<sup>つまはじ</sup>にしてきた人々の顔を思い出し、激しい憤りと彼らへの復讐心<sup>ふくしゅう</sup>を再燃させている。
- ⑤ 聞き上手な「僕」に身の上話をしたことで、カナブンのような孤高の生き方を貫く覚悟が揺らぎ、後悔している。



問5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「圧搾空気」という言葉は、司馬さんが好んで使う言葉です。江戸時代という、ある程度の制約や制限によって抑えられた社会のなかで、思想なり空気なりで熟成されてすごいものができあがる。思想が濃密で純化されたものになる。それを圧搾空気と表現したのです。

江戸時代はずっと私利私欲が抑え込まれていました。どんなに武芸が強くても、大名の家に生まれなければ大名にはなれません。勉強をして、自分は大出世したい、大名ぐらいになりたいと大志を抱いても、それを圧殺する言葉があった。「僭上<sup>せんじょう</sup>」という言葉です。「それは僭上である」と言われれば、もう押し黙るしかない。上をそんなに望んではいかんという時代の強制力があったわけです。

今の話と関連して、江戸時代を理解するキーワードをひとつ挙げれば、「」です。それは、江戸人みんなに課せられていた義務でした。こうした義務が貫徹されると、たとえばものすごい職人とかが生まれたりします。現代で言えばノーベル生理学・医学賞をとれそうな人材も、本人の意思や能力に関係なく、生まれた環境や育ちによって言わば自動的、強制的に与えられた仕事に就きました。しかし、悪いことばかりではなく、彼らは、その家業の道を極めるような完璧な仕事をしました。

(磯田道史 『「司馬遼太郎」で学ぶ日本史』)

問い：空欄に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 武士道
- ② 一家言
- ③ 不退転
- ④ 世間体
- ⑤ 分相応

問6 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

レヴィ＝ストロースは構造の理解を助けるきわめて具体的な例として、眼、鼻、口などの要素間の関係によって成り立っているともいえる人の顔を取りあげ、さまざまな顔の比率の配合の変化を比べた、画家デューラー（1471—1528年）が描いた図を構造主義的直観の興味深い先例として示している。顔はほとんど現存する人の数と同じだけの多様性を生みながら、要素間の関係としては同じ顔であり続けるという事実が、「構造」の端的な例だというわけである。この例は筆者に、ある日本の画家の語る、印象的なエピソードを思い出させる。スランプに陥って絶望状態にあった画家が、電車に乗ってふと周りの人々の顔の無限の多様さに気づいた時、創作意欲が戻ってくるのを感じたという。「構造」の概念は、生きるための灵感の源である自然の喜ばしい多様性（もっとも人の顔は自然であると同時にもっとも人間的なものでもあるが）に直結していることが確かめられる。

（渡辺公三『レヴィ＝ストロース 構造』）

問い：本文の内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 「構造」の概念は、物事を要素間の関係に帰着させて一元的に理解し、その多様性を無視する考え方である。
- ② デューラーが描いた図は、人間の顔を変形させても人格の同一性が失われないうことを示唆しており、「構造」概念の理解に資する。
- ③ 千差万別な人間の顔を要素間の関係から成り立つ同一の「構造」として捉えられるのは、構造主義的直観の好例といえる。
- ④ ある日本の画家がスランプを克服できたのは、多種多様な人間の顔の背後にある不変の「構造」を直観したためである。
- ⑤ 「構造」の概念を通して、画家は固定観念から解放され、自然の多様性に目を向けるようになることで、新たな着想さえも得ることができる。

問7 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

社会全体での格差拡大は、総需要不足をもたらす要因にもなる。資産格差が拡大しつづけると、少数の人々が多くの資産を保有し、残りの多くの人々が資産を取り崩して負債を背負うようになる。そのとき、資産を持っている豊かな人々は資産相応の消費をせず、他方、貧しい人々は貧しさゆえに消費が十分にできない。そのため、総需要が不足して不況になる。

このことは、生産能力が低く、1人当たりの平均資産量も少ない成長経済であっても、資産が少数の人々に集中し、格差が広がっていくにつれて、成熟経済のような総需要不足と長期経済停滞が起こることを示している。さらに、総需要不足は失業や非効率な雇用を生むため、貧困層は負債と所得不足の両方に悩まされ、ますます貧困から抜け出せなくなる。

このとき再分配をすれば、総需要が拡大するから経済全体での総生産も拡大し、貧困層だけでなく富裕層の所得も増加させることができる。このように、再分配は単なる社会福祉政策を超えて、不況を避け、すべての人を豊かにするためにも、有効なのである。

(小野善康『資本主義の方程式』)

問い：本文の内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 資産格差が拡大すると、社会が富裕層と貧困層に二極化し、消費活動が旺盛な中間層が存在しなくなるため、総需要が不足する。
- ② 総需要不足によって経済が不況に陥ったとしても、社会全体の生産能力が低下することにより、貧富の格差は縮まっていく。
- ③ 成熟経済においては総需要不足によって経済が停滞するが、資産量が十分でない成長経済においてはこうした現象が発生しない。
- ④ 総需要不足に陥ると経済が停滞するとともに雇用情勢が悪化するため、貧困層は貧困を脱するのがより一層難しくなる。
- ⑤ 資産の再分配は経済を好転させ、貧困層の救済につながる政策であるが、富裕層にとっては恩恵があるとは言い難い。

問8 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

香織は、軽く声を挙げて笑った。

私は、内心少なからず動揺していた。自分は今、木津香織と会話をしている。一対一で会話を交している。

それは、無意識に近いところでずっと憧れていた空想の中の一シーンに近かった。

ただ、願望と言ってもいいその空想の中では、自分はもう少しましな身なりをしているはずだった。少なくとも、ランニング用の短パンと上が野球用のアンダーシャツ、右手にシューズ一足をぶらさげ、左手には汗拭き用のタオル、アップシューズをきちんと履かず踵を出して、シューズの踵部分を押し潰してサンダルか草履でも履いているかのように足を引きずって歩いているというぶざまな恰好ではなかったはずだ。

夢想していたことの一部分が叶ったとしても、現実のタイミングとか巡り合わせというものはこういうものだ。人間社会の喜怒哀楽とは、実は多くの場合、この夢想と現実の微妙なギャップの中にこそ存在する。

私は、一瞬の哲学をする余裕を自覚した。そして、その哲学が昂揚した気持ちの隅をよぎった途端に、多少動揺が治まった。

(原田伊織『夏が逝く瞬間』)

問い:「多少動揺が治まった」とあるが、「私」の気持ちが変わった原因は何か。「～に気づいたから。」につながる形で15字以内で抜き出して答えなさい。

問9 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

木の枝を使って蟻塚の蟻を釣ったり、芋を海で洗って食べたりするサルが知られている。これも立派な文化だが、動物や進化論の研究者によれば、子孫にも、集団にも継承されづらいようだ。その理由はさまざまあるが、1つは、人間のように、家庭や学校などの社会組織によって、親や教師との接触を通じて、集団的に文化を継承していく制度や仕組みがないからである。現在のさまざまな知識や暮らし方などの文化が、家族や学校などの社会制度を担う親や教師によって、その文化を知らない若い年代の層に伝達される。この社会的な伝達によって、若い年代層は同じ発達段階で同じ経験をし、同じような意識をもつことになる。これは新しい世代を形成することである。つまり、文化の社会的伝承が世代を作り、世代が文化を継続させるのである。サルにはこのような機能をもつ世代が形成できないので、文化は継承されずに個体の学習に終わってしまう。

(松田 久一 『「嫌消費」世代の研究』 東洋経済新報社)

問い：サルの文化が継承されにくいのはなぜか。「世代」の語を用いて、「サルの社会には、」に続けて、「～から。」につながる形で30字以内で説明しなさい。

【大問2】 次の文章と資料を読んで、後の各問いに答えなさい。（全5問／配点37点）

①刑法犯の認知件数と検挙率の推移を示しているグラフ1を見ると、近年の日本の犯罪情勢は、全体的には改善に向かっているといえる。一方で、犯罪の種類別に見ると、サイバー犯罪のように被害が拡大しているものも存在する。サイバー犯罪とは、コンピュータ・ネットワークの悪用や不正アクセスを通じて行われる犯罪のことである。警察庁の発表によれば、2014年から2020年にかけてサイバー犯罪の検挙件数は増加の一途をたどっており、2021年の検挙件数は前年から20%以上も増えて、12,209件となった。サイバー犯罪が増加している大きな理由は、である。

第一に、現代では、企業が顧客情報をはじめとする機密情報を電子データの状態で保管したり送受信したりすることが常態化している。そして、情報に本来アクセス権を持たない者が、他人になりすましてシステムやネットワークに不正にアクセスし、入手した情報を売買する犯罪も多発するようになった。また、電子メールやSNSなどを通じて実在の通販サイト等を装った偽のウェブサイトへと誘導し、決済時に必要とされる個人情報を入力させて盗み取るフィッシング詐欺なども頻発している。

第二に、クレジットカード・電子マネー・暗号資産などのキャッシュレス決済の拡大がサイバー犯罪に与えた影響も無視できないだろう。表1を見ると、不正アクセス禁止法違反の検挙件数は2019年から2021年にかけて減少し続けているものの、コンピュータ・電磁的記録対象犯罪は増加傾向が続いており、2021年の数値は2017年の2倍以上にもなっている。その中でも電子計算機使用詐欺の増加が著しく、こちらは2021年の数値が2017年の3倍以上にのぼる。

電子計算機使用詐欺とは、コンピュータに虚偽の情報もしくは不正な指令を入力することによって、財産上の利益を得る行為のことであり、具体的には、銀行システムのプログラムを改変して預金を引き出しても残額が減少しないようにする行為などが挙げられる。また、他人のクレジットカードを不正利用する場合、店頭で使えば旧来の「詐欺」にあたるが、電子マネーの購入に使ったりオンラインショッピングで使ったりした場合は「電子計算機使用詐欺」にあたる。つまり、キャッシュレス決済が一般化したことで、情報が電子データの状態であふれ、それらがコンピュータを經由して悪用される機会も増えた結果、電子計算機使用詐欺の検挙件数が増大し

たと考えられるのだ。

さらに、近年のサイバー犯罪の増加原因として、新型コロナウイルス感染症の影響も指摘することができる。グラフ2を見ると、2020年下半期以降、企業や団体においてランサムウェアによる被害が右肩上がりに増加していることがわかる。ランサムウェアとは、感染した端末に保存されているデータを利用不可能にしたうえで、それを利用可能にする対価として金銭を要求する不正プログラムである。警察庁の発表によれば、ランサムウェアの感染経路はVPN（注1）やリモートデスクトップ（注2）等、テレワークで利用される技術が大半を占めている。つまり、d結果、企業や団体の保有する情報がサイバー攻撃の脅威にさらされるリスクが増大したということである。テレワークとは、情報通信技術を活用してオフィス外の場所で働くという勤労形態であり、感染防止のために外出を控えながら働く方法として近年導入する企業が増加している。しかし、ランサムウェアの感染経路を見ると、テレワーク時のセキュリティ対策には大きな課題がありそうである。総務省の調査によれば、テレワークを導入した企業は2019年には20.2%であったところ、2020年には47.5%にまで増加しており、ランサムウェアによる被害拡大との関連がうかがえる。

以上のように、人々の経済活動の多くが電子データ化され、インターネット上で行われる部分が拡大するにつれ、サイバー犯罪の被害も拡大してきた。ビジネスでもプライベートでも多様なオンラインサービスが日常生活に浸透した現在、我々は常にサイバー犯罪のリスクにさらされている。したがって、各人が日頃からサイバー犯罪の脅威に備え、セキュリティ意識を高めておく必要があるといえよう。

注1—VPNとは、インターネット上に仮想的な専用ネットワークを構築し、特定の人だけがアクセスできるようにする仕組みのこと。

注2—リモートデスクトップとは、離れた場所にあるコンピュータを手元の端末から遠隔操作できるようにする仕組みのこと。



グラフ1 刑法犯の認知件数と検挙率の推移



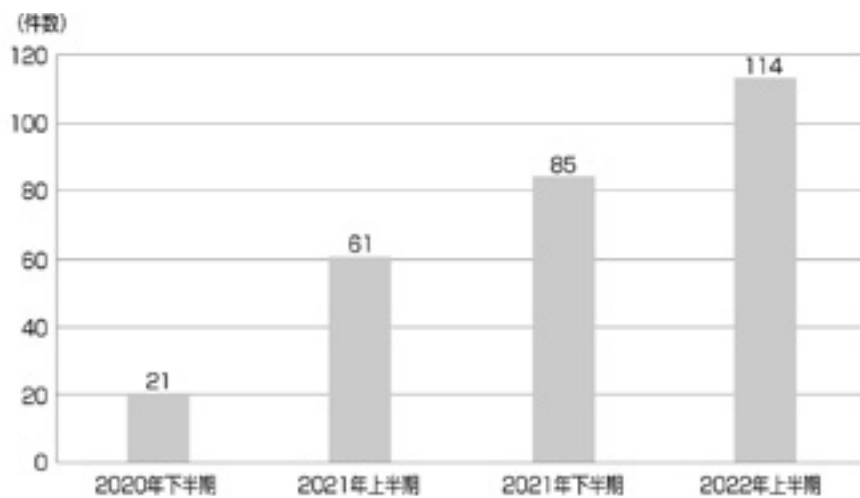
法務省「令和4年版 犯罪白書」をもとに作成

表1 不正アクセス禁止法違反及びコンピュータ・電磁的記録対象犯罪等の検挙件数の推移

年次	不正アクセス禁止法	支払用カード電磁的記録に関する罪	コンピュータ・電磁的記録対象犯罪		
			合計	電子計算機使用詐欺	その他
2017	648	579	355	228	127
2018	564	405	349	188	161
2019	816	286	436	325	111
2020	609	91	563	511	52
2021	㉗	61	㉘	㉙	37

法務省「令和4年版 犯罪白書」をもとに作成

グラフ2 企業・団体等におけるランサムウェア被害の報告件数の推移



警察庁「令和4年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」をもとに作成

問1 下線部④に関連して、グラフ1からわかることとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 2000年から2010年にかけて、刑法犯の認知件数が前年に比べて減少した年は、検挙率も減少している。
- ② 2000年から2021年の中で、刑法犯の認知件数が前年比20%以上増加した年は2回あった。
- ③ 2000年から2021年の中で、刑法犯の検挙率が6年以上増加し続けた期間は2回以上あった。
- ④ 2000年から2021年の中で、刑法犯の認知件数が最も多かった年は、検挙率が最も低かった年と一致している。
- ⑤ 2012年以降、刑法犯の認知件数と検挙率は共に減少し続けている。

問2 空欄⑥に入る内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① インターネットを活用する新ビジネスの登場
- ② インターネットを通じたコミュニケーションの活性化
- ③ インターネットの普及によるグローバル化の進展
- ④ インターネットの登場による格差の拡大
- ⑤ インターネットを介した経済活動の活発化

問3 表1の㉗、㉘、㉙に当てはまる数値の組み合わせとして最も適当なものを、本文の内容を踏まえて、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① ㉗ 368      ㉘ 756      ㉙ 537
- ② ㉗ 501      ㉘ 607      ㉙ 725
- ③ ㉗ 564      ㉘ 662      ㉙ 635
- ④ ㉗ 429      ㉘ 729      ㉙ 692
- ⑤ ㉗ 893      ㉘ 738      ㉙ 816

問4 本文の内容を踏まえて、空欄㉓に入れるべき適切な内容を本文中から探し、10字以内で抜き出さない。

問5 本文の内容を踏まえて、空欄㉔に入れるべき適切な内容を、30字以内で答えなさい。